

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520865

研究課題名(和文) 出土文字・発掘資料による秦王朝各地方における禁苑の分布・構造及び意義に関する研究

研究課題名(英文) Studies on the significance and distribution and structure of Imperial Park in Qin Dynasty by character-excavated excavation material

研究代表者

馬 彪 (ma, biao)

山口大学・人文学部・教授

研究者番号：20346539

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は1989年に出土した雲夢龍崗秦簡の禁苑律令にはじめて見つけた禁苑の新史料にしたがって、秦帝国における全国に散在した禁苑群に関する研究である。研究成果は三部に分けて、1 秦地禁苑研究は上林苑・渭水上流の秦旧都地・御陵周辺における禁苑群の実像を明らかにした成果。第二部の東海沿岸禁苑研究は、山東半島・渤海湾・江淮下流「呉地」・粵地における禁苑群実像を明らかにした成果。第三部の長江・黄河中流禁苑研究は、楚王城・長江中流域禁苑・「巡北辺」と最期の禁苑を明かにした成果。従って筆者はこれまでの秦帝国の研究と異なる秦帝国各地方に散在していた禁苑ネットワークの存在とその帝国の政治機能を明かにした。

研究成果の概要(英文)：This study is called Studies on the significance and distribution and structure of Imperial Park in Qin Dynasty by character-excavated excavation material. This study according to the material of Longgang Qin slips(1989). The results of this study include the following three parts: Part 1 The Imperial Parks in Qin area. This is the basic research which includes the Imperial Parks in the river basin of Wei-river. For example Shang linyuan Park, the old Capital of Qin and the Imperial mausoleum. Part 2 The Imperial Parks in the area of East coast. This research which includes the Imperial Parks in the Shandong Peninsula, Bohai Bay, Wu arear and Yue areas. Part 3 The Imperial Parks in the area of the Yangtze River and the Yellow River basin flow. This research which includes the Imperial Parks in Yunmeng Chu king City, northern frontier and the last area which the Emperor.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・アジア史

キーワード：禁苑 秦帝国 秦地 東海沿岸 黄河・長江中流域

1. 研究開始当初の背景

戦国時代各国の離宮群が秦王朝の時代に至ってから一律に禁苑と呼ばれ始めたことは、1989年に出土した龍崗秦簡にみえる禁苑に関する秦律の発見から明らかになった。筆者は平成17-19年度に携わった科学研究費補助金・基盤研究(C)「雲夢龍崗秦簡」の注釈による秦史の再構成に関する研究において「**中国史上初めての皇帝の帝国における禁苑は、今まで殆どの研究者が考えている朝廷の庭園では決してなく、それは全国各地方にも設置された中央朝廷が派出した政治拠点である**」との結論を得たことによって、今回の課題が生れたのであり、本研究は前の課題の続編ともいえる。この禁苑律の研究以外、筆者は研究補助金の分担者や連携研究者として、**秦の禁苑との比較の観点から中国歴代あるいは東アジア諸国における禁苑遺跡の調査を行ってきた**。例えば、橋本義則を研究代表者とする一連の研究「東アジア諸国における都城および都城制に関する比較史的総合研究」「東アジア諸国における都城及び都城制の比較を通じてみた日本古代宮都の通時的研究」「比較史的観点からみた日本と東アジア諸国における都城制と都城に関する総括的研究」、さらに山中章氏の「GISを用いた東アジア都市・王城遺跡形成史の比較研究」や新宮学氏「近世東アジア都城的比較研究」などに加わり、殷～秦の沙丘苑や開封の金明池苑や北京円明園、韓国の景福宮や王宮里、ベトナムのタンロン城の苑とフエ皇城の禁苑、モンゴルの夏宮と冬宮などを踏査した。これらの調査ではまだ結論を得る段階に至っていないが、少なくとも冒頭に記した秦帝国の「禁苑ネットワーク」が他の時代と国には存在していなかったであろうと推定する。これまでの調査はまだ初歩的なものにすぎず、まとまった調査と研究の準備段階であるとはいえ、さらにこの研究を発展させれば、中国だけではなく東アジア都城史の重要な一部分となると信じるようになった。

2. 研究の目的

近年、中国で発見された木簡で、秦王朝の禁苑は決して皇室の遊園でなく、当時重要な政治を行う場であり、近畿に当る上林苑のみならず、帝国各地に多くの禁苑が散在していたことが明らかになった。このような「禁苑ネットワーク」はそののち二千年、中国の諸王朝では消えたため、文献に殆どその姿を見ることができない。ゆえに、本研究の目的は、出土資料により、秦王朝の各地方に存在する禁苑群という政治を行う場所が、帝国の都という政治中心との役割分担をどのように担

ったかという観点で、秦代禁苑の分布・構造・政治的な特質を明かにするものである。

3. 研究の方法

近年来、漢簡に関する研究は多くあるが、秦簡についての研究は少ない状況にあり、また現在の木簡や竹簡研究は殆ど法律史を中心としたものであるが、本研究は出土文字によって禁苑の空間構造や機能などについて考証を加え、学界で未だ嘗て論じられていない禁苑に焦点を当てる点に**学術方法的な特色**がある。

今、本研究の研究代表者が木簡研究と都城史研究を両立してやってきた所以ともいえ、出土史料(木簡と発掘遺跡)によって中国古代文明の代表的な秦帝国の禁苑に研究の焦点を当て、さらに時期的には戦国末・統一秦王朝の初期の禁苑にねらいを定め、そこから秦帝国の政治執行システムの実像に迫ることが本研究の**独創的な方法的な特徴**である。

4. 研究成果

本報告は、平成23年(2011)～平成25年(2013)度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(C)(研究課題「出土文字・発掘資料による秦王朝各地方における禁苑の分布・構造及び意義に関する研究」、課題番号23520865)による研究成果である。

本研究は1989年に出土した雲夢龍崗秦簡の禁苑律令にはじめて見つけた「雲夢禁中」(簡1)「它禁苑」(簡83)「禁苑在關外」(簡52)「河禁」(簡82)「沙丘苑」(簡35)などの新史料にしたがって、秦帝国における全国に散在した禁苑群にかんする調査と研究である。該当研究は主に三部に分けて、第一部の秦地禁苑研究・第二部の東海沿岸禁苑研究・第三部の長江・黄河中流禁苑研究という三部構成として編みなおしたものである。

第一部は、本研究の基礎となる「秦地禁苑」であるのは、関中における上林苑と「它禁苑」を中心とすることを指す。その研究は三地域にわけて行った。(1)渭河の南岸における秦の近畿地域禁苑である上林苑遺跡の調査と研究である。(2)甘肅～陝西の渭水流域にある歴代秦の禁苑を調査し、特に近年に陝西省考古研究院の研究チームはその辺りに位置した陝西省西部秦漢離宮の遺跡を発見したので、其の現場の踏査を行った。(3)直道沿線の行宮として林光宮から内モンゴルの麻池古城までの禁苑遺跡を調査した。直道の北端にあたる麻池古城遺跡や延安山区とオルトス直道沿線の行宮を踏査した。

第二部は、東海沿岸禁苑の研究であり、すなわち「禁苑在關外」の一部としての沿海地域の禁苑、換言すれば戦国時代の燕・斉・楚の呉越などの「地遠」(『史記』秦始皇本紀の王綰の語)の地にあたる禁苑についての研究である。その研究は三地域にわけて行った。

(1) 姜女廟離宮遺跡の調査により、始皇帝の渤海湾にて三仙山崇拜についての研究ができた。(2) 泰山と山東半島祭祀遺跡から始皇帝の帝国祭祀と旧六国地方祭祀ともに行うことを追求した。(3) 長江・淮水流域における始皇帝の巡幸先、即ち会稽山・秦国門などの踏査により始皇帝の歴代の英雄崇拜を活用し、帝国新概念を踏み込んだことを検討した。

第部の研究は長江と黄河中流流域、すなわち秦の「遠交近攻」という戦略の「近」地域での禁苑についての研究である。例えば、「禁苑在關外」のものの中に「雲夢禁中」や「河禁」や「沙丘苑」などの禁苑は研究の対象となり、言いかえれば先秦時代の楚・趙・魏・韓地域における禁苑についての研究ともいえよう。その研究は三地域にわたって行った。(1) 秦の統一する前にも占領した楚地にあたる雲夢禁苑を中心としての検討である。(2) 沙丘苑という始皇帝の出身地邯鄲における禁苑と(3) 暗殺未遂事件を行った函谷関～山東半島への道、「巡北辺」した道、また始皇帝の死体を運ぶ井陘之道の沿線における行宮などの研究である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

1) 馬彪 「秦・前漢初期「関中」における関(津)・塞についての再考」『近世東アジア比較都城史の諸相』白帝社、1、査読無、2014年2月、p251-264。

2) 馬彪 「秦代「黔首」の入禁と通関に関わる符伝制」『東アジア研究』11号、査読有、2013年3月p239-260。

3) 馬彪 「戦国秦漢簡帛中所見“表”及其“旁行邪上”特徴」『山口大学文学会志』第63巻、査読無、(2013年2月)p41-58。

4) 馬彪 「龍崗秦簡譯注(凡十一篇)」『異文化研究』2012年3月第6号、査読無、p49-73。

5) 馬彪 「龍崗秦簡における律名の復元について」『アジアの歴史と文化』第16号、査読無、2012年3月、p1-12。

6) 馬彪 「動物人格化にみる農業文明を征服する秦帝国の原理 龍崗秦簡の動物管理律令を中心としての検討」『山口大学文学会志』第62巻、査読無、(2012年2月)p91-106。

7) 馬彪 「秦漢の郷里三老」河合文化研究所『研究論集』第10集、査読無、2012年12月p63-74。

[学会発表](計5件)

1) 馬彪 「試論漢簡所見“大石”“小石”的問題」、居延遺址與絲綢之路歷史文化國際學術研討會、2013年8月24日、中國甘肅省金塔縣。

2) 馬彪 「秦漢民間社会 三老を中心として」、シンポジウム「現代中国農民運動の意義 - 前近代史からの考察」、2012年07月22日、龍谷大学(京都市)。

3) 馬彪 *The tables found in excavated documents of the Qin and Han dynasties and the form of mathematical tables*; Workshop shared with the project 《History of numerical tables》-Workshop on Chinese sources; CNRE & University Paris Diderot; 2012 March 22 CNRE & University Paris Diderot パリ(フランス)。

4) 馬彪 *Management of grains, measuring units and the imperial policy of the Qin and the Han*; CNRE & University Paris Diderot パリ(フランス); 2012 Fri. March 9.

5) 馬彪 「“大石”“小石”的產生及其相關問題的討論」(第十三屆國際東亞科學史會議)、2011年07月15日、中国・合肥・中国科技大学。

[図書](計1件)

1) 馬彪 『秦帝国の領土経営：雲夢龍崗秦簡と始皇帝の禁苑』、京都大学学術出版会、2013年2月出版、p1-500。

[産業財産権]
出願状況(計0件)

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

馬 彪（代表者）
山口大学・人文学部・教授
研究者番号：23520865

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：